

★当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／海外／資産複合
信託期間	5年4カ月間（2014年6月18日～2019年10月17日）
運用方針	信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行いません。
主要投資対象	イ. ケイマン籍の外国投資信託「ダイワ・プレミアム・トラスト・ダイワ・オーストラリア・ハイインカム・セキュリティーズ・ファンド（通貨αクラス）」（以下「ダイワ・オーストラリア・ハイインカム・セキュリティーズ・ファンド（通貨αクラス）」といいます。）の受益証券（円建） ロ. ダイワ・マネーポートフォリオ・マザーファンドの受益証券
当ファンドの運用方法	①主として、ダイワ・オーストラリア・ハイインカム・セキュリティーズ・ファンド（通貨αクラス）の受益証券を通じて、豪ドル建てのハイブリッド証券および普通社債等への投資により、高利回りの獲得をめざすとともに、通貨のオプション取引を組合わせたカバードコール戦略の構築により、オプションプレミアムの確保をめざします。 ②当ファンドは、ダイワ・オーストラリア・ハイインカム・セキュリティーズ・ファンド（通貨αクラス）とダイワ・マネーポートフォリオ・マザーファンドに投資するファンド・オブ・ファンズです。通常の状態、ダイワ・オーストラリア・ハイインカム・セキュリティーズ・ファンド（通貨αクラス）の投資割合を高位に維持することを基本とします。 ③ダイワ・オーストラリア・ハイインカム・セキュリティーズ・ファンド（通貨αクラス）では、原則として、為替変動リスクを回避するための為替ヘッジは行いません。
組入制限	投資信託証券への投資割合には、制限を設けません。
分配方針	分配対象額は、経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等とし、原則として、継続的な分配を行なうことを目標に、基準価額の水準を勘案して分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行わないことがあります。

# ダイワ豪ドル建て 高利回り証券α （毎月分配型）

## 運用報告書（全体版）

第3期（決算日	2014年11月17日）
第4期（決算日	2014年12月17日）
第5期（決算日	2015年1月19日）
第6期（決算日	2015年2月17日）
第7期（決算日	2015年3月17日）
第8期（決算日	2015年4月17日）

### 受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

さて、「ダイワ豪ドル建て高利回り証券α（毎月分配型）」は、このたび、第8期の決算を行ないました。

ここに、第3期～第8期中の運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

## 大和投資信託

Daiwa Asset Management

東京都千代田区丸の内一丁目9番1号  
お問い合わせ先（コールセンター）  
TEL 0120-106212  
（営業日の9:00～17:00）  
<http://www.daiwa-am.co.jp/>

# ダイワ豪ドル建て高利回り証券α（毎月分配型）

## ■設定以来の運用実績

決算期	基準価額			公社債組入比率	投資信託証券組入比率	純資産総額
	(分配落)	税込分配金	期騰落率			
	円	円	%	%	%	百万円
1 期末(2014年 9 月17日)	9,971	80	0.5	0.0	99.0	30,784
2 期末(2014年10月17日)	9,540	80	△ 3.5	0.0	99.0	30,151
3 期末(2014年11月17日)	10,062	80	6.3	0.0	99.0	32,212
4 期末(2014年12月17日)	9,506	80	△ 4.7	0.0	99.1	30,701
5 期末(2015年 1 月19日)	9,500	80	0.8	0.0	98.9	30,759
6 期末(2015年 2 月17日)	9,119	80	△ 3.2	0.0	98.8	29,621
7 期末(2015年 3 月17日)	9,125	80	0.9	0.0	98.9	29,582
8 期末(2015年 4 月17日)	9,087	80	0.5	0.0	99.0	29,433

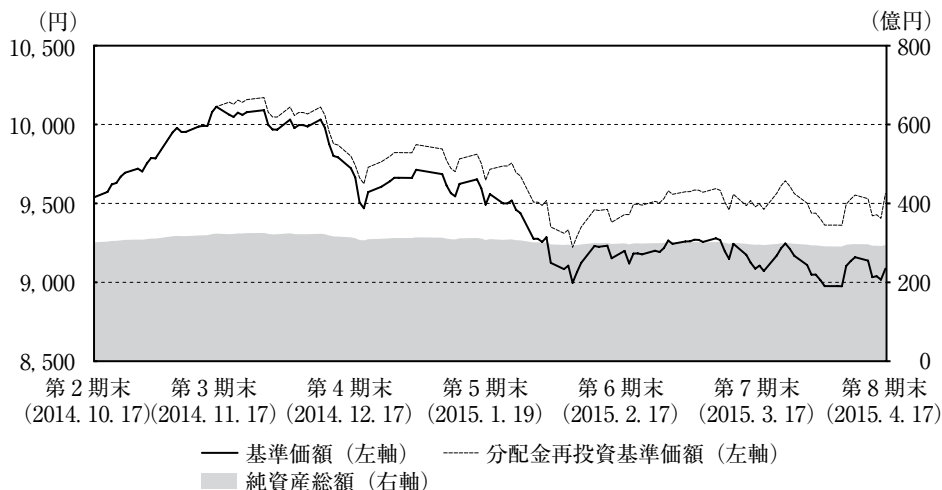
(注1) 基準価額の騰落率は分配金込み。

(注2) 公社債組入比率は、マザーファンドの組入比率を当ファンドベースに換算したものを含まず。

(注3) 公社債組入比率は新株予約権付社債券（転換社債券）および債券先物を除きます。

(注4) 当ファンドは、ファンドの運用方針に対して適切な比較指数がないため、ベンチマークおよび参考指数を記載しておりません。

## ■当作成期間（第3期～第8期）中の基準価額の推移



\* 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものであり、お客さまの損益の状況を示すものではありません。

\* 分配金を再投資するかどうかについては、お客さまが利用するコースにより異なります。また、分配金の課税条件は、ファンドの購入価額により異なります。

	年 月 日	基 準 価 額		公 社 債 率	投 資 信 託 証 券 率
		騰 落 率	騰 落 率		
第 3 期	(期首) 2014年10月17日	円 9,540	% —	0.0	% 99.0
	10月末	9,785	2.6	0.0	99.2
	(期末) 2014年11月17日	10,142	6.3	0.0	99.0
第 4 期	(期首) 2014年11月17日	10,062	—	0.0	99.0
	11月末	9,968	△ 0.9	0.0	99.2
	(期末) 2014年12月17日	9,586	△ 4.7	0.0	99.1
第 5 期	(期首) 2014年12月17日	9,506	—	0.0	99.1
	12月末	9,713	2.2	0.0	99.1
	(期末) 2015年1月19日	9,580	0.8	0.0	98.9
第 6 期	(期首) 2015年1月19日	9,500	—	0.0	98.9
	1月末	9,123	△ 4.0	0.0	99.0
	(期末) 2015年2月17日	9,199	△ 3.2	0.0	98.8
第 7 期	(期首) 2015年2月17日	9,119	—	0.0	98.8
	2月末	9,244	1.4	0.0	98.9
	(期末) 2015年3月17日	9,205	0.9	0.0	98.9
第 8 期	(期首) 2015年3月17日	9,125	—	0.0	98.9
	3月末	9,049	△ 0.8	0.0	99.0
	(期末) 2015年4月17日	9,167	0.5	0.0	99.0

(注) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比。

## 《運用経過》

### ◆基準価額等の推移について

#### 【基準価額・騰落率】

第3期首：9,540円 第8期末：9,087円（既払分配金480円） 騰落率：0.2%（分配金再投資ベース）

#### 【基準価額の主な変動要因】

豪ドル建てのハイブリッド証券および普通社債等に投資した結果、債券の利息収入を得たこと、および通貨オプションのプレミアム収入がプラスの寄与となり、基準価額は値上がりしました。

### ◆投資環境について

#### ○オーストラリア債券市況

オーストラリア債券市況は、金利低下しました。第3期首より、世界的な景気減速懸念や各国・地域の中央銀行の金融緩和政策を受けて世界的に金利低下が優勢となりました。オーストラリアに関しても、原油価格の下落や中国の金融緩和、RBA（オーストラリア準備銀行）の利下げ観測などを背景に金利低下が続きました。2015年2月には、RBAが大方の予想に反し政策金利を引下げたことで金利低下が進行しました。

豪ドル建て社債や同ハイブリッド証券の信用スプレッド（国債に対する上乗せ金利）は、世界景気の先行きへの懸念や原油価格の下落など、商品市況の低迷を受けて拡大傾向となりました。

## ダイワ豪ドル建て高利回り証券α（毎月分配型）

### ○為替相場

豪ドル為替相場は、対円でやや下落しました。2014年10月末に日銀が追加金融緩和を決定したことで、11月半ばにかけて大きく上昇（円安）しました。しかしその後は、商品市況の下落やRBAの利下げ観測の台頭、中国経済の減速見通し、2015年2月のRBAによる利下げなどを受けて下落しました。2月中旬以降は、原油価格の下げ止まりや世界的な株価の上昇が豪ドルの下支え要因となり、レンジ推移となりました。

### ○通貨オプション市況

通貨オプションのボラティリティは一進一退の推移となりました。第3期首から2014年12月末にかけては、原油価格の下落から豪ドル円が急落した場面などで、ボラティリティが一時上昇する動きも見られましたが、おおむねレンジでの推移となりました。2015年1月に入ると、スイス・フランの対ユーロ為替レートの上限が撤廃されたことで為替市場全体のボラティリティが高まりました。また、オーストラリアでの早期利下げ観測の強まりから豪ドル円が急落したこともあり、ボラティリティは大きく上昇しました。しかし2月に入ると、世界的な株高から市場のリスク選好度が強まり豪ドル円が緩やかに上昇したことで、ボラティリティは大きく低下しました。3月以降は、鉄鉱石価格の下落から豪ドル円の下落が続いたことでボラティリティが上昇する場面もありましたが、おおむねレンジでの推移となりました。

### ◆前作成期間末における「今後の運用方針」

当ファンドは、「ダイワ・プレミアム・トラスト・ダイワ・オーストラリア・ハイインカム・セキュリティーズ・ファンド（通貨αクラス）」（以下、「ダイワ・オーストラリア・ハイインカム・セキュリティーズ・ファンド（通貨αクラス）」）といたします。）の受益証券への投資割合を高位に保つことによって、豪ドル建てのハイブリッド証券および普通社債等に投資するとともに、オプション取引を組合わせた通貨カバードコール戦略を構築することで、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行ないます。

受益証券の運用につきましては、豪ドル建て社債と同ハイブリッド証券の流通市場で割安に取引されている銘柄や、新規発行の優先証券の組入れに注力しています。2014年後半も普通社債とハイブリッド証券の起債が共に活発になると見込んでおり、今後も新規発行および流通市場の状況を注視しながら、特にリスク対比で高い利回りを提供するハイブリッド証券の発掘に注力する方針です。通貨カバードコール戦略については、引続き保有する豪ドル建て資産の評価額の50%程度のコール・オプションを売却することで、オプションプレミアムの獲得をめざします。

### ◆ポートフォリオについて

#### ○当ファンド

当ファンドは、ダイワ・オーストラリア・ハイインカム・セキュリティーズ・ファンド（通貨αクラス）とダイワ・マネーポートフォリオ・マザーファンドに投資するファンド・オブ・ファンズであり、当作成期間を通じてダイワ・オーストラリア・ハイインカム・セキュリティーズ・ファンド（通貨αクラス）への投資割合を高位に維持することを基本としました。

#### ○ダイワ・オーストラリア・ハイインカム・セキュリティーズ・ファンド（通貨αクラス）

豪ドル建てのハイブリッド証券および普通社債等への投資により、高利回りの獲得をめざすとともに、通貨のオプション取引を組み合わせたカバードコール戦略の構築により、オプションプレミアムの確保をめざして運用を行ないました。円に対する豪ドルのコール・オプションのカバー率は、保有する豪ドル建て資産の評価額の50%程度を維持しました。

#### ○ダイワ・マネーポートフォリオ・マザーファンド

資産の安全性に配慮し、短期の国債およびコール・ローン等の短期金融資産への投資により、安定的な運用を行ないました。

◆ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークや参考指数を設けておりません。

◆分配金について

【収益分配金】

第3期から第8期の1万口当り分配金（税込み）はそれぞれ80円といたしました。

■分配原資の内訳（1万口当り）

項 目	第 3 期	第 4 期	第 5 期	第 6 期	第 7 期	第 8 期
	2014年10月18日 ～2014年11月17日	2014年11月18日 ～2014年12月17日	2014年12月18日 ～2015年1月19日	2015年1月20日 ～2015年2月17日	2015年2月18日 ～2015年3月17日	2015年3月18日 ～2015年4月17日
当期分配金（税込み）（円）	80	80	80	80	80	80
対基準価額比率（％）	0.79	0.83	0.84	0.87	0.87	0.87
当期の収益（円）	80	80	80	80	79	80
当期の収益以外（円）	—	—	—	—	0	—
翌期繰越分配対象額（円）	173	182	188	194	194	195

（注1）「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

（注2）円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税込み）に合致しない場合があります。

（注3）当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

【決定根拠、留保益の今後の運用方針】

収益分配金の決定根拠は下記の「収益分配金の計算過程（1万口当り）」をご参照ください。

なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

■収益分配金の計算過程（1万口当り）

項 目	第 3 期	第 4 期	第 5 期	第 6 期	第 7 期	第 8 期
(a) 経費控除後の配当等収益	94.65円	88.28円	85.46円	86.05円	79.95円	80.88円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
(c) 収益調整金	13.39	16.61	18.35	19.95	22.14	23.62
(d) 分配準備積立金	145.30	157.27	164.25	168.27	172.50	171.18
(e) 当期分配対象額 (a + b + c + d)	253.35	262.16	268.07	274.28	274.59	275.69
(f) 分配金	80.00	80.00	80.00	80.00	80.00	80.00
(g) 翌期繰越分配対象額 (e - f)	173.35	182.16	188.07	194.28	194.59	195.69

（注）下線を付した該当項目から分配金を計上しています。

## 《今後の運用方針》

### ○当ファンド

ダイワ・オーストラリア・ハイインカム・セキュリティーズ・ファンド（通貨aクラス）とダイワ・マネーポートフォリオ・マザーファンドに投資し、ダイワ・オーストラリア・ハイインカム・セキュリティーズ・ファンド（通貨aクラス）への投資割合を高位に維持することをめざします。

### ○ダイワ・オーストラリア・ハイインカム・セキュリティーズ・ファンド（通貨αクラス）

豪ドル建て社債や同ハイブリッド証券の流通市場で割安に取引されている銘柄や、新規発行銘柄の組入れに注力します。普通社債とハイブリッド証券は今後も活発な状況が続くと見込んでおり、引続き新規発行および流通市場の状況を注視しながら、特にリスク対比で高い利回りを提供するハイブリッド証券の発掘に注力する方針です。

通貨カバードコール戦略については、保有する豪ドル建て資産の評価額の50%程度のコール・オプションを売却することで、オプションプレミアムの獲得をめざします。

### ○ダイワ・マネーポートフォリオ・マザーファンド

資産の安全性に配慮し、短期の国債およびコール・ローン等の短期金融資産への投資により、安定的な運用を行いません。

■ 1 万口当りの費用の明細

項 目	第 3 期～第 8 期		項 目 の 概 要
	(2014. 10. 18～2015. 4. 17)		
	金 額	比 率	
信託報酬	55円	0. 581%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 期中の平均基準価額（月末値の平均値）は9, 489円です。
（投信会社）	(15)	(0. 161)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託銀行への運用指図、基準価額の計算、目論見書・運用報告書の作成等の対価
（販売会社）	(38)	(0. 404)	販売会社分は、運用報告書等各種書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
（受託銀行）	(2)	(0. 016)	受託銀行分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売買委託手数料	—	—	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権総口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
有価証券取引税	1	0. 006	有価証券取引税＝期中の有価証券取引税／期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
（投資信託受益証券）	(1)	(0. 006)	
その他費用	0	0. 003	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数
（監査費用）	(0)	(0. 003)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
合 計	56	0. 590	

(注1) 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含まず。  
 (注2) 金額欄は各項目ごとに円未満を四捨五入してあります。  
 (注3) 比率欄は1万口当りのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

■ 売買および取引の状況

投資信託受益証券

(2014年10月18日から2015年4月17日まで)

決 算 期	第 3 期 ～ 第 8 期			
	買 付		売 付	
	口 数	金 額	口 数	金 額
	千口	千円	千口	千円
外 国（邦貨建）	30, 509. 251	2, 873. 569	21, 676. 087	1, 998. 000

(注1) 買付は、外国投資信託から支払われた分配金による再投資分を含みます。  
 (注2) 金額は受渡し代金。  
 (注3) 金額の単位未満は切捨て。

■ 主要な売買銘柄

投資信託受益証券

(2014年10月18日から2015年4月17日まで)

第 3 期 ～ 第 8 期							
買 付				売 付			
銘 柄	口 数	金 額	平均単価	銘 柄	口 数	金 額	平均単価
	千口	千円	円		千口	千円	円
DAIWA AUSTRALIAN HIGH INCOME SECURITIES FUND (CURRENCY ALPHA CLASS) (ケイマン諸島)	10, 890. 461	1, 050. 000	96	DAIWA AUSTRALIAN HIGH INCOME SECURITIES FUND (CURRENCY ALPHA CLASS) (ケイマン諸島)	21, 676. 087	1, 998. 000	92

(注1) 金額は受渡し代金。  
 (注2) 金額の単位未満は切捨て。

## ダイワ豪ドル建て高利回り証券α（毎月分配型）

### ■利害関係人との取引状況

#### (1) 当ファンドにおける当作成期間中の利害関係人との取引状況

当作成期間（第3期～第8期）中における利害関係人との取引はありません。

#### (2) ダイワ・マネーポートフォリオ・マザーファンドにおける当作成期間中の利害関係人との取引状況

（2014年10月18日から2015年4月17日まで）

決算期	第3期～第8期						
	買付額等 A		うち利害 関係人との 取引状況B	B/A	売付額等 C		うち利害 関係人との 取引状況D
	百万円	百万円	%	百万円	百万円	%	
公社債	399	209	52.5	—	—	—	—
コール・ローン	8,788	—	—	—	—	—	—

（注）平均保有割合0.0%

※平均保有割合とは、マザーファンドの残存口数の合計に対する当該ベビーフンドのマザーファンド所有口数の割合。

#### (3) 当作成期間中の売買委託手数料総額に対する利害関係人への支払比率

当作成期間（第3期～第8期）中における売買委託手数料の利害関係人への支払いはありません。

※利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当作成期間における当ファンドに係る利害関係人とは、大和証券です。

### ■組入資産明細表

#### (1) ファンド・オブ・ファンズが組入れた邦貨建ファンドの明細

ファンド名	第8期末		
	口数	評価額	比率
外国投資信託受益証券 （ケイマン諸島） DAIWA AUSTRALIAN HIGH INCOME SECURITIES FUND (CURRENCY ALPHA CLASS)	千口 324,596.38	千円 29,134,472	% 99.0

（注1）比率欄は、純資産総額に対する評価額の比率。

（注2）評価額の単位未満は切捨て。

#### (2) 親投資信託残高

種類	第2期末	第8期末	
	口数	口数	評価額
	千口	千口	千円
ダイワ・マネーポート フォリオ・マザーファンド	9	9	10

（注）単位未満は切捨て。

### ■投資信託財産の構成

2015年4月17日現在

項目	第8期末	
	評価額	比率
	千円	%
投資信託受益証券	29,134,472	97.9
ダイワ・マネーポートフォリオ・マザーファンド	10	0.0
コール・ローン等、その他	621,629	2.1
投資信託財産総額	29,756,112	100.0

（注）評価額の単位未満は切捨て。



■資産、負債、元本および基準価額の状況

（2014年11月17日）、（2014年12月17日）、（2015年1月19日）、（2015年2月17日）、（2015年3月17日）、（2015年4月17日）現在

項 目	第 3 期 末	第 4 期 末	第 5 期 末	第 6 期 末	第 7 期 末	第 8 期 末
(A)資 産	32,516,191,643円	31,014,000,747円	31,353,233,698円	29,919,052,599円	30,008,538,027円	29,756,112,395円
コ ー ル ・ ロ ー ン 等	621,185,510	574,391,056	340,672,590	656,529,941	739,258,400	621,629,689
投資信託受益証券(評価額)	31,894,996,131	30,439,599,689	30,413,151,106	29,262,512,656	29,269,269,625	29,134,472,704
ダイワ・マネーポートフォリオ・マザーファンド(評価額)	10,002	10,002	10,002	10,002	10,002	10,002
未 収 入 金	—	—	599,400,000	—	—	—
(B)負 債	303,803,858	312,999,517	593,481,850	297,934,196	425,972,184	322,662,878
未 払 金	—	—	299,700,000	—	—	—
未 払 収 益 分 配 金	256,122,399	258,376,954	259,022,686	259,866,171	259,349,109	259,117,111
未 払 解 約 金	16,562,964	23,457,994	1,405,072	9,556,456	138,889,809	33,342,887
未 払 信 託 報 酬	30,932,671	30,801,626	32,802,207	27,791,258	26,848,013	29,136,638
そ の 他 未 払 費 用	185,824	362,943	551,885	720,311	885,253	1,066,242
(C)純 資 産 総 額 (A-B)	32,212,387,785	30,701,001,230	30,759,751,848	29,621,118,403	29,582,565,843	29,433,449,517
元 本	32,015,299,919	32,297,119,366	32,377,835,792	32,483,271,443	32,418,638,696	32,389,638,937
次 期 繰 越 損 益 金	197,087,866	△ 1,596,118,136	△ 1,618,083,944	△ 2,862,153,040	△ 2,836,072,853	△ 2,956,189,420
(D)受益権総口数	32,015,299,919口	32,297,119,366口	32,377,835,792口	32,483,271,443口	32,418,638,696口	32,389,638,937口
1 万 口 当 り 基 準 価 額 (C / D)	10,062円	9,506円	9,500円	9,119円	9,125円	9,087円

\*第2期末における元本額は31,604,826,665円、当作成期間（第3期～第8期）中における追加設定元本額は2,139,940,946円、同解約元本額は1,355,128,674円です。

\*第8期末の計算口数当りの純資産額は9,087円です。

\*第8期末の純資産総額が元本額を下回っており、その差額は2,956,189,420円です。

■損益の状況

項 目	第 3 期	第 4 期	第 5 期	第 6 期	第 7 期	第 8 期
	自2014年10月18日 自2014年11月17日	自2014年11月18日 自2014年12月17日	自2014年12月18日 自2015年1月19日	自2015年1月20日 自2015年2月17日	自2015年2月18日 自2015年3月17日	自2015年3月18日 自2015年4月17日
(A)配 当 等 収 益	307,978,803円	316,103,892円	309,723,530円	307,487,667円	284,543,824円	291,289,918円
受 取 配 当 金	307,966,734	316,092,531	309,709,468	307,473,645	284,530,328	291,277,508
受 取 利 息	12,069	11,361	14,062	14,022	13,496	12,410
(B)有価証券売買損益	1,634,634,803	△ 1,818,260,466	△ 37,216,268	△ 1,252,417,505	18,805,264	△ 125,952,721
売 買 益	1,636,661,501	4,097,748	481,497	6,902,667	23,378,141	1,505,028
売 買 損	△ 2,026,698	△ 1,822,358,214	△ 37,697,765	△ 1,259,320,172	△ 4,572,877	△ 127,457,749
(C)信 託 報 酬 等	△ 31,118,495	△ 30,978,745	△ 32,991,149	△ 27,959,684	△ 27,012,955	△ 29,317,627
(D)当 期 損 益 金 (A+B+C)	1,911,495,111	△ 1,533,135,319	239,516,113	△ 972,889,522	276,336,133	136,019,570
(E)前 期 繰 越 損 益 金	△ 1,461,880,804	191,905,679	△ 1,591,011,544	△ 1,601,992,163	△ 2,799,466,245	△ 2,759,503,916
(F)追 加 信 託 差 損 益 金	3,595,958	3,488,458	△ 7,565,827	△ 27,405,184	△ 53,593,632	△ 73,587,963
(配 当 等 相 当 額)	( 42,869,731)	( 53,648,646)	( 59,434,711)	( 64,831,752)	( 71,781,726)	( 76,510,641)
(売 買 損 益 相 当 額)	(△ 39,273,773)	(△ 50,160,188)	(△ 67,000,538)	(△ 92,236,936)	(△ 125,375,358)	(△ 150,098,604)
(G)合 計 (D-E+F)	453,210,265	△ 1,337,741,182	△ 1,359,061,258	△ 2,602,286,869	△ 2,576,723,744	△ 2,697,072,309
(H)収 益 分 配 金	△ 256,122,399	△ 258,376,954	△ 259,022,686	△ 259,866,171	△ 259,349,109	△ 259,117,111
次 期 繰 越 損 益 金 (G+H)	197,087,866	△ 1,596,118,136	△ 1,618,083,944	△ 2,862,153,040	△ 2,836,072,853	△ 2,956,189,420
追 加 信 託 差 損 益 金	3,595,958	3,488,458	△ 7,565,827	△ 27,405,184	△ 53,593,632	△ 73,587,963
(配 当 等 相 当 額)	( 42,869,731)	( 53,648,646)	( 59,434,711)	( 64,831,752)	( 71,781,726)	( 76,510,641)
(売 買 損 益 相 当 額)	(△ 39,273,773)	(△ 50,160,188)	(△ 67,000,538)	(△ 92,236,936)	(△ 125,375,358)	(△ 150,098,604)
分 配 準 備 積 立 金	512,136,276	534,686,024	549,522,731	566,275,414	559,084,047	557,322,797
繰 越 損 益 金	△ 318,644,368	△ 2,134,292,618	△ 2,160,040,848	△ 3,401,023,270	△ 3,341,563,268	△ 3,439,924,254

(注1) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しております。

(注2) 追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。

(注3) 収益分配金の計算過程は9ページの「収益分配金の計算過程（総額）」の表を参照。

ダイワ豪ドル建て高利回り証券α（毎月分配型）

■収益分配金の計算過程（総額）

項 目	第 3 期	第 4 期	第 5 期	第 6 期	第 7 期	第 8 期
(a) 経費控除後の配当等収益	303,046,522円	285,125,147円	276,732,381円	279,527,983円	259,205,672円	261,972,291円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	0	0	0	0	0	0
(c) 収 益 調 整 金	42,869,731	53,648,646	59,434,711	64,831,752	71,781,726	76,510,641
(d) 分 配 準 備 積 立 金	465,212,153	507,937,831	531,813,036	546,613,602	559,227,484	554,467,617
(e) 当期分配対象額(a + b + c + d)	811,128,406	846,711,624	867,980,128	890,973,337	890,214,882	892,950,549
(f) 分 配 金	256,122,399	258,376,954	259,022,686	259,866,171	259,349,109	259,117,111
(g) 翌期繰越分配対象額(e - f)	555,006,007	588,334,670	608,957,442	631,107,166	630,865,773	633,833,438
(h) 受 益 権 総 口 数	32,015,299,919口	32,297,119,366口	32,377,835,792口	32,483,271,443口	32,418,638,696口	32,389,638,937口

収 益 分 配 金 の お 知 ら せ						
1 万 口 当 り 分 配 金	第 3 期	第 4 期	第 5 期	第 6 期	第 7 期	第 8 期
		80円	80円	80円	80円	80円
(単 価)	(10,062円)	(9,506円)	(9,500円)	(9,119円)	(9,125円)	(9,087円)

●＜分配金再投資コース＞をご利用の方の税引き分配金は、上記（ ）内の基準価額に基づいて自動的に再投資いたしました。

#### 分配金の課税上の取扱いについて

- ・分配金には、課税扱いとなる「普通分配金」と、非課税扱いとなる「元本払戻金（特別分配金）」があります。
- ・分配落ち後の基準価額が個別元本と同額または個別元本を上回る場合には、分配金の全額が普通分配金となります。
- ・分配落ち後の基準価額が個別元本を下回る場合には、下回る部分の額が元本払戻金（特別分配金）、残りの額が普通分配金です。
- ・元本払戻金（特別分配金）が発生した場合は、分配金発生時における個々の受益者の個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の個々の受益者の個別元本となります。
- ・普通分配金については、20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%および地方税5%）の税率による源泉徴収が行なわれ、申告不要制度が適用されます。なお、確定申告を行ない、申告分離課税または総合課税（配当控除の適用はありません。）を選択することもできます。
- ・法人の受益者の場合、税率が異なります。
- ・税法が改正された場合等には、上記の内容が変更になることがあります。くわしくは、販売会社にお問い合わせください。
- ・課税上の取扱いの詳細につきましては、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

当ファンドは少額投資非課税制度「NISA（ニーサ）」の適用対象です。非課税口座における取扱いについては販売会社にお問い合わせください。

#### 《お知らせ》

##### ●運用報告書（全体版）の電子交付について

2014年12月1日施行の法改正により、運用報告書は「交付運用報告書」と「運用報告書（全体版）」（本書）の2種類になりましたが、「運用報告書（全体版）」については、交付に代えて電子交付する旨を信託約款に定めました。

##### ●書面決議手続きの改正について

重大な約款変更や繰上償還の際に行なう書面決議について、2014年12月1日施行の法改正により以下の点が変わりましたことに伴い、信託約款の該当箇所の変更を行ないました。

- ・書面決議の可決要件が、「受益者の半数以上の賛成かつ受益者の保有する議決権の3分の2以上の賛成を得ること」から「受益者の保有する議決権の3分の2以上の賛成を得ること」に変更されました。
- ・投資信託の併合を行なう際、すべての場合で書面決議が必要とされてきましたが、その併合が受益者の利益に及ぼす影響が軽微なものであるときは、当該併合に関する書面決議が不要となりました。
- ・書面決議に反対した受益者による受益権買取請求の規定について、一部解約請求に応じる投資信託（当ファンドは該当しません。）には適用されなくなりました。

【本資料は、受益者のみなさまにファンドの運用状況をお知らせするためのものであり、投資の勧誘を目的としたものではありません。】

## ダイワ豪ドル建て高利回り証券 $\alpha$ （毎月分配型）

### ダイワ・プレミアム・トラストーダイワ・オーストラリア・ハイインカム・ セキュリティーズ・ファンド（通貨 $\alpha$ クラス）

当ファンド（ダイワ豪ドル建て高利回り証券 $\alpha$ （毎月分配型））の主要投資対象であるケイマン籍の外国投資信託「ダイワ・プレミアム・トラストーダイワ・オーストラリア・ハイインカム・セキュリティーズ・ファンド（通貨 $\alpha$ クラス）」は、2015年3月31日に第1期決算を行なっておりますが、2015年4月17日現在、決算情報を入手できておりません。

<補足情報>

当ファンド（ダイワ豪ドル建て高利回り証券a（毎月分配型））が投資対象としている「ダイワ・マネーポートフォリオ・マザーファンド」の決算日（2014年12月9日）と、当ファンドの決算日が異なっておりますので、当ファンドの第8期の決算日（2015年4月17日）現在におけるダイワ・マネーポートフォリオ・マザーファンドの組入資産の内容等を12ページに併せて掲載いたしました。

■ダイワ・マネーポートフォリオ・マザーファンドの主要な売買銘柄

公 社 債

(2014年10月18日から2015年4月17日まで)

買 付		売 付	
銘 柄	金 額	銘 柄	金 額
	千円		千円
510 国庫短期証券 2015/5/12	99,999		
512 国庫短期証券 2015/5/18	99,999		
502 国庫短期証券 2015/3/30	40,000		
481 国庫短期証券 2014/12/22	39,999		
521 国庫短期証券 2015/6/29	39,998		
496 国庫短期証券 2015/3/9	30,000		
464 国庫短期証券 2015/1/14	19,999		
497 国庫短期証券 2015/3/16	19,999		
493 国庫短期証券 2015/2/23	9,999		

(注1) 金額は受渡し代金（経過利子分は含まれておりません）。

(注2) 単位未満は切捨て。

■組入資産明細表

下記は、2015年4月17日現在におけるダイワ・マネーポートフォリオ・マザーファンド（387,802千円）の内容です。

(1)国内（邦貨建）公社債（種類別）

2015年4月17日現在							
区 分	額 面 金 額	評 価 額	組入比率	うちBB格 以下組入 比 率	残存期間別組入比率		
					5年以上	2年以上	2年未満
国 債 証 券	千円 240,000	千円 239,998	% 61.6	% —	% —	% —	% 61.6

(注1) 組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合。

(注2) 額面金額、評価額の単位未満は切捨て。

(2)国内（邦貨建）公社債（銘柄別）

2015年4月17日現在						
区 分	銘 柄	年 利 率	額 面 金 額	評 価 額	償 還 年 月 日	
国債証券	510 国庫短期証券	—	千円 100,000	千円 99,999	2015/05/12	
	512 国庫短期証券	—	100,000	99,999	2015/05/18	
	521 国庫短期証券	—	40,000	39,998	2015/06/29	
合 計	銘 柄 数 金 額	3 銘柄	240,000	239,998		

(注) 単位未満は切捨て。

# ダイワ・マネーポートフォリオ・マザーファンド

## 運用報告書 第6期（決算日 2014年12月9日）

（計算期間 2013年12月10日～2014年12月9日）

ダイワ・マネーポートフォリオ・マザーファンドの第6期にかかる運用状況をご報告申し上げます。

### ★当ファンドの仕組みは次の通りです。

運用方針	安定した収益の確保をめざして安定運用を行ないます。
主要投資対象	円建ての債券
運用方法	①円建ての債券を中心に投資し、安定した収益の確保をめざして安定運用を行ないます。 ②円建資産への投資にあたっては、残存期間が1年未満、取得時においてA-2格相当以上の債券およびコマーシャル・ペーパーに投資することを基本とします。
株式組入制限	純資産総額の10%以下

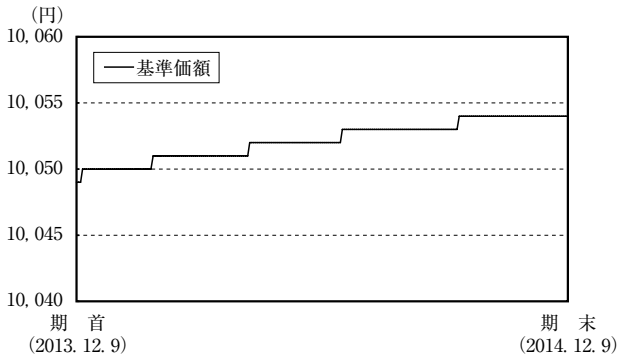
## 大和投資信託

Daiwa Asset Management

東京都千代田区丸の内一丁目9番1号

<http://www.daiwa-am.co.jp/>

■当期中の基準価額の推移



年 月 日	基 準 価 額		公 社 債 組 入 率
	円	騰 落 率 %	
(期首) 2013年12月9日	10,049	—	78.1
12月末	10,050	0.0	78.1
2014年1月1日	10,050	0.0	97.6
2月末	10,051	0.0	73.2
3月末	10,051	0.0	73.2
4月末	10,052	0.0	73.2
5月末	10,052	0.0	73.2
6月末	10,053	0.0	73.2
7月末	10,053	0.0	137.0
8月末	10,053	0.0	63.2
9月末	10,054	0.0	63.2
10月末	10,054	0.0	125.2
11月末	10,054	0.0	62.6
(期末) 2014年12月9日	10,054	0.0	62.6

(注1) 騰落率は期首比。  
 (注2) 公社債組入比率は新株予約権付社債券(転換社債券)および債券先物を除きます。  
 (注3) 当ファンドは、安定した収益の確保をめざして安定運用を行っており、ベンチマークおよび参考指数はありません。

《運用経過》

◆基準価額等の推移について

【基準価額・騰落率】

期首：10,049円 期末：10,054円 騰落率：0.0%

【基準価額の主な変動要因】

利息収入により、基準価額は値上がりしました。

◆投資環境について

期を通じて、日銀は金融市場調節の操作目標をマネタリーベースとする量的・質的金融緩和政策を維持しました。また、2014年10月末には追加金融緩和を実施し、長期国債を中心とする資産買い入れを一層拡大しました。このような日銀の金融政策を背景に、短期金融市場ではおおむね低位での金利水準が続き、無担保コール翌日物金利は0.06%台を中心に推移しました。国庫短期証券(3カ月物)の利回りは0.06%程度で始まりましたが、日銀の買い入れによる需給ひっ迫等を背景に、△0.01%程度まで低下して期末を迎えました。

◆前期における「今後の運用方針」

資産の安全性に配慮し、短期の国債およびコール・ローン等の短期金融資産への投資により、安定的な運用を行なってまいります。

◆ポートフォリオについて

短期の国債およびコール・ローン等の短期金融資産による安定運用を行ないました。

◆ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークや参考指数を設けておりません。

《今後の運用方針》

引続き、資産の安全性に配慮し、短期の国債およびコール・ローン等の短期金融資産への投資により、安定的な運用を行なってまいります。

■1万口当りの費用の明細

項 目	当 期
売 買 委 託 手 数 料	—円
有 価 証 券 取 引 税	—
そ の 他 費 用	—
合 計	—

(注) 費用の項目および算出法については前掲の「1万口当りの費用の明細」の項目の概要をご参照ください。

■売買および取引の状況

公 社 債

(2013年12月10日から2014年12月9日まで)

		買 付 額	売 付 額
		千円	千円
国	国 債 証 券	409,953	—
内		(	520,000)

(注1) 金額は受渡し代金(経過利子は含まれておりません)。  
 (注2) ( )内は償還による減少分で、上段の数字には含まれておりません。  
 (注3) 単位未満は切捨て。

■主要な売買銘柄

公 社 債

(2013年12月10日から2014年12月9日まで)

当 期				
買 付		売 付		
銘 柄	金 額	銘 柄	金 額	金 額
	千円			千円
481 国庫短期証券 2014/12/22	39,999			
469 国庫短期証券 2014/11/4	39,996			
428 国庫短期証券 2014/5/7	39,994			
449 国庫短期証券 2014/8/4	39,994			
427 国庫短期証券 2014/4/28	39,994			
448 国庫短期証券 2014/7/28	39,993			
430 国庫短期証券 2014/5/12	29,996			
450 国庫短期証券 2014/8/11	29,995			
447 国庫短期証券 2014/7/22	19,997			
425 国庫短期証券 2014/4/21	19,996			

(注1) 金額は受渡し代金(経過利子分は含まれておりません)。

(注2) 単位未満は切捨て。

■組入資産明細表

(1)国内(邦貨建)公社債(種類別)

区 分	当 期			期 末			
	額面金額	評価額	組入比率	うちBB格以下組入比率	残存期間別組入比率		
	千円	千円	%	%	5年以上	2年以上	2年未満
国債証券	50,000	49,999	62.6	—	—	—	62.6

(注1) 組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合。

(注2) 額面金額、評価額の単位未満は切捨て。

(2)国内(邦貨建)公社債(銘柄別)

区 分	当 期			期 末		
	銘 柄	年利率	額面金額	評価額	償還年月日	
		%	千円	千円		
国債証券	481 国庫短期証券	—	40,000	39,999	2014/12/22	
	493 国庫短期証券	—	10,000	9,999	2015/02/23	
合計	銘柄数	2銘柄				
	金額		50,000	49,999		

(注) 単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

2014年12月9日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
公 社 債	49,999	62.6
コール・ローン等、その他	29,897	37.4
投資信託財産総額	79,897	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

2014年12月9日現在

項 目	当 期 末
(A)資 産	79,897,648円
コ ー ル ・ ロ ー ン 等	29,897,861
公 社 債(評価額)	49,999,787
(B)負 債	—
(C)純 資 産 総 額 (A-B)	79,897,648
元 本	79,467,922
次 期 繰 越 損 益 金	429,726
(D)受 益 権 総 口 数	79,467,922口
1万口当り基準価額(C/D)	10,054円

\* 期首における元本額は203,797,483円、当期中における追加設定元本額は9,949円、同解約元本額は124,339,510円です。

\* 当期末における当マザーファンドを投資対象とする投資信託の元本額は、ダイワ/ロジャーズ国際コモディティ™・ファンド25,528,439円、ダイワ/フィデリティ・アジア・ハイ・イールド債券ファンド(通貨選択型)日本円・コース(毎月分配型)998円、ダイワ/フィデリティ・アジア・ハイ・イールド債券ファンド(通貨選択型)ブラジル・リアル・コース(毎月分配型)998円、ダイワ/フィデリティ・アジア・ハイ・イールド債券ファンド(通貨選択型)アジア通貨・コース(毎月分配型)998円、ダイワ豪ドル建て高利回り証券α(毎月分配型)9,949円、ダイワ豪ドル建て高利回り証券ファンド-予想分配金提示型-53,926,540円です。

\* 当期末の計算口数当りの純資産額は10,054円です。

■損益の状況

当期 自2013年12月10日 至2014年12月9日

項 目	当 期
(A)配 当 等 収 益	81,223円
受 取 利 息	81,223
(B)有価証券売買損益	1,008
売 買 益	1,008
(C)当 期 損 益 金 (A+B)	82,231
(D)前 期 繰 越 損 益 金	1,007,934
(E)解 約 差 損 益 金	△ 660,490
(F)追 加 信 託 差 損 益 金	51
(G)合 計 (C+D+E+F)	429,726
次 期 繰 越 損 益 金 (G)	429,726

(注1) 解約差損益金とは、一部解約時の解約価額と元本との差額をいい、元本を下回る場合は利益として、上回る場合は損失として処理されます。

(注2) 追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。



《お知らせ》

●書面決議手続きの改正について

重大な約款変更や繰上償還の際に行なう書面決議について、2014年12月1日施行の法改正により以下の点に変更されたことに伴い、信託約款の該当箇所の変更を行ないました。

- ・書面決議の可決要件が、「受益者の半数以上の賛成かつ受益者の保有する議決権の3分の2以上の賛成を得ること」から「受益者の保有する議決権の3分の2以上の賛成を得ること」に変更されました。
- ・投資信託の併合を行なう際、すべての場合で書面決議が必要とされてきましたが、その併合が受益者の利益に及ぼす影響が軽微なものであるときは、当該併合に関する書面決議が不要となりました。
- ・書面決議に反対した受益者による受益権買取請求の規定について、一部解約請求に応じる投資信託（当ファンドは該当します。）には適用されなくなりました。